

【一般演題1】 第3席 「『医心方』を骨子としての『黄帝内経明堂類成』の復元の試み（第二報）」

愛媛 山見 宝 村山 功 光藤 英彦

鍼灸術は、古代からの伝承医術である。しかし、現代人の一般的医療として提供されるにあたっては残念ながらいかにも普遍性に欠けていると見なされていることに肯首せざるを得ない。それは、この伝承の中断あるいは混乱のためであると思われる。鍼灸術運用の普遍性を高める為の科学的研究としては、古代からの伝承を整理する作業がもっとも基本的な一歩であると考えられる。さらに整理・検討された伝承を臨床的観点から検討することが科学的研究の次の一歩であると考ええる。

第3回の本学会において、『医心方』を骨子として『甲乙』・『外台秘要』を参照して『類成』の復元を行い、これと実際に残存する『類成』自身と比較して復元のレベルについて検討した結果を報告した。

今回は、前回の復元の原則に基づいて大腸経の復元を行い、さらに医心方をキーワードとして条文の単位条文化を試みた。